

- 問1 不況期において、日本銀行が景気を刺激するために行う金融政策の一つに「買いオペレーション」があります。この政策において、日本銀行が市中銀行に対して行う具体的な行動として正しいものはどれですか。 (2015年 富山県公立入試 類似)
- 市中銀行が保有する国債を買い入れる
 - 市中銀行に対して国債を売り出す
 - 市中銀行への貸出金利を引き上げる
 - 市中銀行からの預金準備率を引き上げる
- 問2 現代の金融生活において重要とされる、クレジットカードの「計画的な支出管理」について説明したものとして、正しいものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
- 決済の仕組み上、商品を受け取った瞬間に現金で支払うのと同じ状態になるため、将来の収入予定を考慮する必要はない
 - 将来の支払いに困ることがないよう、自身の収入や他の支出予定を照らし合わせて、無理のない範囲で利用すること
 - カード会社が代金を立て替えてくれる利便性を最大限に活用し、収入の多寡にかかわらず欲しいものをすべて購入すること
 - 支払いを後回しにできる利点を生かして、具体的な返済計画を立てることなく、常に利用限度額いっぱいまで利用すること
- 問3 日本銀行が「買いオペレーション」を実施した際、市場におけるお金の流れや経済への影響はどのように変化すると考えられますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 高知県公立入試 類似)
- 日本銀行が市中銀行から国債を買い取ることで、市場の通貨量が減少するため、通貨の価値が上がり円高が進む。
 - 日本銀行が市中銀行へ国債を売り出すことで、市場の通貨量が減少し、物価の上昇を抑える効果が生まれる。
 - 日本銀行が政府から直接国債を買い取ることで、公共事業の予算が増え、雇用が直接的に創出される。
 - 日本銀行が市中銀行から国債を買い取ることで、銀行の資金に余裕ができ、企業への貸し出しが増えて景気が刺激される。
- 問4 日本銀行の役割についての説明として、正しいものはどれですか。 (2018年 兵庫県公立入試 類似)
- 外国の政府から直接税金を集める
 - 町にあるスーパーでお買い物をする
 - 日本銀行券という紙幣を発行する
 - 一般の人や会社にお金を貸し出す
- 問5 景気が後退している不景気の際、政府が実施する財政政策と、日本銀行が実施する金融政策の組み合わせとして最も適切な説明はどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)
- 政府が所得税や消費税の増税を行って消費を抑制し、日本銀行が民間銀行から国債を買い取ることで市場の通貨量を増やす。
 - 政府が公共投資を増やして仕事と需要を創出し、日本銀行が民間銀行から国債を買い取ることで市場の通貨量を増やす。
 - 政府が公共投資を増やして雇用を安定させ、日本銀行が民間銀行に国債を売却することで金利の上昇を促す。
 - 政府が公共投資を減らして財政支出を抑え、日本銀行が民間銀行に国債を売却することで市場の通貨量を減らす。
- 問6 不況の際、日本銀行が景気を刺激して安定させるために行う金融政策について、市場に出回る資金の量を増やすための適切な操作はどれですか。 (2024年 福岡県公立入試 類似)
- 政府が公共投資を削減することで、社会全体の支出を抑えて物価を安定させる
 - 日本銀行が民間銀行へ国債などを売り、その代金を回収することで資金を吸収する
 - 日本銀行が民間銀行から国債などを買い入れ、その代金を支払うことで資金を供給する
 - 政府が増税を実施することで、企業の経済活動を抑制し景気の過熱を防ぐ
- 問7 好況期において、日本銀行が「売りオペレーション」を行う主な目的と、その仕組みを説明した文として正しいものを次から選びなさい。 (2020年 島根県公立入試 類似)
- 通貨の流通を活発にすることで失業率をさらに下げ、国民所得を増やすため。
 - 市場の通貨量を増やすことで金利を低下させ、企業の投資を促進するため。
 - 日本銀行の保有する国債を減らすことで、政府の財政赤字を解消するため。
 - 市場の通貨量を減らすことで金利を上昇させ、景気の行き過ぎを抑えるため。
- 問8 日本銀行が景気の停滞期に行う「買いオペレーション」と呼ばれる金融政策について、その仕組みと目的を正しく説明しているものはどれですか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
- 日本銀行が民間銀行から国債などを買い入れることで、市場に流通する通貨量を増やし、経済を活性化させる。
 - 日本銀行が一般企業から直接国債を買い入れることで、企業の負債を減らし、倒産を防止する。
 - 日本銀行が政府から直接国債を買い入れることで、政府の歳入を増やし、公共事業の拡大を直接的に支援する。
 - 日本銀行が民間銀行に国債などを売却することで、市場に流通する通貨量を減らし、物価の上昇を抑制する。
- 問9 銀行などの金融機関が、家計などの預金者から集めた資金を、自らの責任で企業などの借り手に貸し出す金融の仕組みを何といいますか。 (2026年 鳥取県公立入試 類似)
- 証券取引
 - 間接金融
 - 公開市場操作
 - 直接金融
- 問10 企業から家計に向かって「株式・債券」の流れがあり、その対価として家計から企業へ「資金」が流れる状況において、この金融の仕組みと中央で仲介を担う組織の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2025年 岡山県公立入試 類似)
- 仕組みは直接金融であり、証券会社が仲介する
 - 仕組みは間接金融であり、銀行が仲介する
 - 仕組みは直接金融であり、日本銀行が仲介する
 - 仕組みは間接金融であり、証券会社が仲介する
- 問11 不況の際、日本銀行は景気を刺激するために市場に流通する資金の量を調整する「金融政策」を行います。日本銀行が民間の銀行から国債を買い入れることで、市場の資金量を増やす操作を行った場合、その後の経済に与える影響として最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 愛知県公立入試 類似)
- 銀行の貸出金利が下がることで、企業が資金を借りやすくなり、生産活動が活発になる。
 - 市場の資金量が不足することで物価が下落し、消費者の購買意欲が刺激される。
 - 政府が公共事業を増やすことで、失業者が減少し、家計の消費が大幅に拡大する。
 - 銀行の貸出金利が上がることで、個人の預金意欲が高まり、通貨の価値が安定する。
- 問12 日本銀行が景気回復を目指して実施する「買いオペレーション」において、国債の売買が市場の金利や企業の活動に与える影響として正しいものはどれですか。 (2018年 大分県公立入試 類似)
- 日本銀行が国債を売り出すことで、銀行の持つ資金が増え、企業の倒産を防ぐ効果がある。
 - 日本銀行が国債を買い取ることで、市場の通貨量が減り、物価の上昇を抑える効果がある。
 - 日本銀行が国債を売り出すことで、市場の通貨量が不足し、金利が上がって景気の過熱が抑制される。
 - 日本銀行が国債を買い取ることで、銀行の貸し出し資金に余裕ができ、金利が下がって企業の設備投資が促される。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 市中銀行が保有する国債を買い入れる	日本銀行が市中銀行から国債を買い入れることで、その代金として日本銀行から市中銀行へ通貨が支払われます。これにより市場に流通する通貨量が増加し、銀行が企業や個人へ融資を行いやすくなるため、景気を向上させる効果が期待されます。対照的に、国債を売る行為は「売りオペレーション」と呼ばれ、景気が過熱している際に行われます。
問2	答え 2 将来の支払いに困ることがないように、自身の収入や他の支出予定を照らし合わせて、無理のない範囲で利用すること	クレジットカードの利用は、実質的にはカード会社からの「借金」と同じ状態です。計画的な支出管理とは、単にカードを使うのではなく、将来訪れる支払い（引き落とし）のタイミングで、自分の収入から無理なくその代金を捻出できるかどうかを事前に計算し、管理することを指します。これは、健全な消費生活を維持するための基本的なスキルです。
問3	答え 4 日本銀行が市中銀行から国債を買い取ることで、銀行の資金に余裕ができ、企業への貸し出しが増えて景気が刺激される。	買いオペレーションが行われると、日本銀行から市中銀行へ代金が支払われます。これにより市中銀行が持つ資金（通貨量）が増え、企業や個人への貸し出しが活発になります。その結果、世の中全体に回るお金が増え、景気を回復させる方向へ力が働きます。国債を売って通貨量を減らすのは好景気の際の抑制策であり、買いオペレーションの目的とは逆の効果になります。
問4	答え 3 日本銀行券という紙幣を発行する	日本銀行は「発券銀行」とも呼ばれ、私たちが普段使っているお金（日本銀行券）を発行できる唯一の銀行です。一般の銀行とちがい、私たち一人ひとりが直接お金を借りたり預金したりすることはできません。
問5	答え 2 政府が公共投資を増やして仕事や需要を創出し、日本銀行が民間銀行から国債を買い取ることによって市場の通貨量を増やす。	不景気のときは民間企業の活動や家庭の消費が落ち込むため、政府は公共事業を増やす財政政策によって直接的な需要を生み出し、景気の下支えを図ります。これに合わせ、中央銀行である日本銀行は民間銀行から国債を買い入れる「買いオペレーション」を行い、代金として現金を供給することで市場の通貨量を増やし、金利を下げて企業が資金を借りやすくする金融政策を実施します。
問6	答え 3 日本銀行が民間銀行から国債などを買い入れ、その代金を支払うことで資金を供給する	不況時には、世の中の資金を増やして経済を活性化させる必要があります。日本銀行が民間銀行から国債などを買い取る「買いオペレーション」を行うと、その代金が民間銀行に支払われ、市場に流通する通貨量が増加します。これにより金利が下がり、企業や個人が資金を借りやすくなることで景気の回復が期待されます。
問7	答え 4 市場の通貨量を減らすことで金利を上昇させ、景気の行き過ぎを抑えるため。	好況時に日本銀行が国債を売ると、民間金融機関が手持ちの資金を支支払いに充てるため、市場の通貨量が少なくなります。お金の供給が減ると資金調達が難しくなり、金利（利子率）が上昇します。これにより、企業や個人の借り入れが抑制され、消費や投資の勢いが落ち着くことで景気の過熱が抑えられます。
問8	答え 1 日本銀行が民間銀行から国債などを買い入れることで、市場に流通する通貨量を増やし、経済を活性化させる。	不景気の際、日本銀行は世の中に出回るお金の量（通貨量）を増やすことで景気を下支えしようとします。日本銀行が民間銀行の持つ国債を買い取ることで、その代金が民間銀行へと流れ、市場の通貨量が増加します。これにより金利が下がり、企業や個人が資金を借りやすくなることで、消費や投資といった経済活動の活性化が期待されます。
問9	答え 2 間接金融	資金の出し手（預金者）と借り手（企業など）の間に、銀行などの金融機関が仲介者として入る仕組みです。金融機関が自らの責任で資金を運用するため、借り手が返済できなくなった場合のリスクも金融機関が負うことになります。これに対し、企業が発行する株式などを投資家が直接購入する仕組みは直接金融と呼ばれます。
問10	答え 1 仕組みは直接金融であり、証券会社が仲介する	家計（投資家）が企業の成長を期待して株式などを購入し、企業がその資金を用いて事業を行う流れは直接金融に該当します。この市場において、取引の場を提供したり、売買を仲介したりするのは証券会社の役割です。銀行が預金者から集めた資金を自らの判断で企業に貸し出す間接金融との違いを理解することが重要です。
問11	答え 1 銀行の貸出金利が下がることで、企業が資金を借りやすくなり、生産活動が活発になる。	不況時には、日本銀行が民間銀行から国債などを買い入れる「買いオペレーション」が行われます。これにより、民間銀行が保有する資金量が増え、銀行が企業や個人に貸し出す際の金利が低下します。金利が下がると、企業は設備投資などのための資金を借りやすくなるため、社会全体の生産活動や消費が活発になり、景気の回復が期待されます。
問12	答え 4 日本銀行が国債を買い取ることで、銀行の貸し出し資金に余裕ができ、金利が下がって企業の設備投資が促される。	日本銀行が国債を買うことで市場の通貨量が増加すると、お金の供給が需要を上回る形となり、一般的に金利は低下します。金利が下がると、企業は事業を拡大するための資金を借りやすくなり、設備投資や雇用が生まれます。このように、通貨量の調整を通じて民間経済の意思決定に働きかけるのが公開市場操作の狙いです。